

メコン地域の輸送インフラと物流事情

石田正美

●はじめに

メコン地域の国々は、「陸のASEAN」ともいわれ、各国とも陸上国境が海岸線に比べ長い。このため、越境陸送に関心が寄せられているが、この地域と第3国との間の貿易は、空路や航路も含めたマルチ・モデル輸送として捉えていく必要がある。本研究会では、道路、港湾、空港、ドライ・ポートなどインフラのハード面と輸送規定やコストなどソフト面にも焦点をあて、国ごと並びに地域全体をみたトピックの章を交えた専門家向けの書籍づくりをめざす。

●先行研究の整理

メコン地域における物流に関心が持たれるようになったのは、アジア開発銀行（ADB）のイニシアティブに基づき東西・南北・南部の3つの経済回廊の建設が同地域で本格化する2000年代半ば以降である。参考文献①は、ADBの大メコン圏（GMS）経済協力と経済回廊開発の経緯を示している。参考文献②、③は、ASEANの主要物流ルートの区間ごとの時間とコストを、荷主や物流企業からの情報をベースにまとめるなど、実務担当者に必要な情報をまとめている。

英語文献では参考文献④がインフラ開発の観点から、連結性（Connectivity）改善のためにインフラ開発を多国間ベースで協力する必要性を論じている。2010年以降では、参考文献⑤が、メコン地域を含むASEANにおける通関手続き、港湾事情、各経済回廊などの状況をまとめている。

●ほぼ完成した3つの経済回廊

2000年代から開発されてきたメコン地域の経済回廊も2015年に南部経済回廊のカンボジア国内のメコン川に架かる「つばさ橋」が完成し、東西経済回廊のミャンマー区間で片側通行を余儀なくされていたドーナ山脈周辺のバイパス道路が整備され、3つの経済回廊もほぼ完成し、次なるステップとして国道の4車線化と高速道路の整備に課題が移りつつある。またソフト面でも大メコン圏6カ国で約20年にわたり検討されてきた越境交通協定（CBTA）が、2015年にミャンマーの批准に

より、関係国すべてが批准したこととなり、今後CBTAがメコン地域各地の国境で実施されることとなる。

このようにメコン地域の物流事情についての専門書のニーズは高い。しかしながら、参考文献⑤はウェブ上のレポートであり、最近の状況を包括的に記した書籍は出されておらず、今回2年研究会を立て、ジェットロとアジア経済研究所のメンバーが共同で書籍づくりに取り組む。

●作成が予定される書籍

全体は、域内の総論と各国編とに分かれる。域内の総論は、域内の港湾や空港のインフラ整備状況とともに海路と航路についての章、域内の越境を含む陸上輸送のハードとソフト面のインフラについての章をそれぞれ設け、全体を説明した後、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムについての各国編で1章ずつ設ける。国により課題は異なるが、各国とも首都や主要都市における港湾、空港、物流施設との関係、国内の主要都市間の物流、越境物流の3本立てで、各章をまとめていく。

（いしだ まさみ／アジア経済研究所 開発研究センター）

《参考文献》

- ① 石田正美・工藤年博編『大メコン圏経済協力——実現する3つの経済回廊——』アジア経済研究所、2007年。
- ② ジェトロ『ASEAN物流ネットワーク・マップ』日本貿易振興機構、2007年。
- ③ ジェトロ『ASEAN物流ネットワーク・マップ 2008』日本貿易振興機構、2008年。
- ④ Bhattacharyay, Biswa Nath, "Infrastructure for ASEAN Connectivity and Integration," *ASEAN Economic Bulletin*, Vol. 27, No. 2, Singapore: ISEAS, 2010.
- ⑤ ジェトロ『ASEAN・メコン地域の最新物流・通関事情』日本貿易振興機構、2013年。